

第3回 総合福祉計画策定委員会 高齢者福祉部会 会議録

令和5年11月2日(木)13:30~
箕輪町役場 2階 大会議室

(進行 課長)

1 開会 課長あいさつ

今月は部会が今日を含めて2回ある。よろしくお願したい。

2 部会長あいさつ

部会としては3回目。是非皆さんに意見をいただければと思う。

3 協議事項

将来の箕輪町人口や高齢化率について事務局より説明
(資料：会場内説明資料 (PPT))

(委員) 2040年というと私も88歳。17年後だが、人口も減ってくる。部落が小さいところは50歳以下の人は少なくなってしまう。地域で支えあいができるか心配。あと、10年何とかできるかもしれないが…

(委員) 何かそのあたりで事務局どうか

(事務局) 小さい部落で100軒程度。地区を回していくのは大変になる。この土地を離れられない人もいる。そういった方が町で暮らし続けられるために地域づくりを考えていきたい

(委員) 来年度の役員を選任の時期だが、現状60歳で会社を辞める人はいない。70歳で仕事を辞める人もいる。木下、松島、沢、大出以外は(担い手確保が)難しい。役員のなり手がなくなる。

ふれあい広場をみても、地域のお年寄りを集めて行うがボランティアも高齢化している。若手のボランティアがいないので、育てていかないといけない。地域包括ケアシステム、いいシステムがあるので、空中分解しないようにしないといけない。人を外に出す機会としての地域の集まりがなくなり、家から出なくなってしまう。10年後の自分がお世話にならないといけなくなったときに、支援してくれる人がいないのが心配。

施設の職員が減っている。地域の中で、施設の送迎を住民が行うことで施設の負担が減る。地域での送迎体制をつくることを考えると、保険は検討しないといけない。

支援するシステムを作ることで、支援できると手をあげてくれる人もいると思う。公的なものを構築していく必要がある

- (委員) 若い人が区に入らない人がいる。若い人とのつながりが薄くなっている。歯止めをかけないといけない。町にも指導してほしい。区の維持をしているのが難しくなる。
- (委員) 区や常会を辞めるとなったら、止めない。役員が回ってくるので辞めるといふ人もいる。町職員の手間が増える。
- (委員) 役員の負担を減らす話が町からあった。
- (委員) 一般の人たちの負担を減らそうと話になっている。しかし、区や常会を辞めたいといふ人もいるのが現状
- (委員) お年寄りの数は変わらないけど、職員の数がこのまま減っていくのであれば存続が危ない。
- (委員) 人口が減っていくのは、全国的な問題。社会や経済が小さくなる。それに対して、人口を増やそうという計画はあるのか
- (事務局) 他の課になるが、減っている日本の中で取り合いをしている。町も子育て支援に力を入れたり、若者のUターン等政策はしている。
- (委員) 箕輪町に入ってくれば他が減る。人口が増えて行っている国がある。日本人にこだわっている段階ではない。働き手がいなくなってくる。海外の人の力を借りる必要もある。
- (事務局) 外国人を取り入れることについて、外国人が来てもらい日本でどう暮らしていくかが大切。外国人から選んでもらうよう考えていく必要がある。

1 生きがいづくり・健康づくり・介護予防の推進

⇒質問なし

2 介護予防・生活支援サービス事業

- (事務局) 総合事業聞いたことある人？皆さんの知名度は、その程度。
- (委員) 今の状態だったら、困りごとは少ないが高齢者が増えた場合、施設や職員の問題が出てくる。介護保険利用の基準が厳しくなり、現在の要介護 1.2の皆さんが総合事業対象として移行する話もある。
- 各地域で、住民ができることは住民で担い、支えあわないととなっているが 10年後、支えられるかといわれると心配。
- (委員) 事業の対象者については、民生委員になって知った。サポーターとして役に立ちたいと思った、そういった方に研修会等を開催してもらおうというのではないか。
- どのように接していけばよいか。どこまで入って行っていいのか。困っていないといわれた時など、対応の仕方をどうしたらいいか迷うことがある。
- (事務局) コロナで活動が停滞してしまった。生活支援・介護サポーター受講者数はたくさんいたが、機会があればという方もいる。協力してくれるというサポーターに対しアクションをしていく必要がある。講座を開きスキルアップしてもらえるようにしていきたい。

- (委員) 総合事業設計の見直しのタイミング、とは具体的に？
- (事務局) 年度で考えている。考え方として、これまでの総合事業の範囲である、要支援 1.2 が拡大していく可能性がある。また現行のサービス内容が、現状の住民の困りごとに対して対応しているのかどうか、と思っている。
- (委員) 簡略に、今の話を入れると現状からの課題に対し、行政の役割がイメージしやすいのでは？
- (事務局) 書きぶりを考えたい。
総合事業を知らない方が多いので、周知をしていくことと、住民やケアマネジャー、事業所とよく話をして、ニーズを掘り下げられればと思う。
総合事業も対象になる方は 80 代の方も多い。例えば総合事業のいきいき塾も 80、90 代の利用が多い。介護保険利用になる前に、もう少し前の段階で使ってもらいたい。今は介護の状態で使っているのが現状で、そういった段階別の交通整理をする必要があるように思う。
全て行政でなくても、地域住民で支えあう活動があれば、総合事業でなくてもいいのかなと思う。年代ごとのニーズを把握しながらテコ入れしていきたい。

3 地域全体で高齢者を支える体制の整備

- (委員) 地域で心配な人がいるが、歩いているのを見かけて声をかけ、最終的に家の中に入れるまで 2 時間かかった。その人と一緒に歩いた。どんなルートを歩いているか見たかった。見当違いの方向を歩いていた。
- (委員) サポーターを受講しフォローアップ講座も受けたが、活躍する機会がない。せつかく受けたので利用できる仕組みを作ってもらえると嬉しい。横のつながりを持ち、支援者と手をつないで支援をしていきたい。
- (委員) 3 月に行方不明者が発生したが、近所の人もおかしいねと気づいていた。常会・近所の人に集まってもらい、次に同じようなことがあれば声をかけるよう気を付けるねと話になった。実際に体験し、いきっかけになった。
- (委員) その人を支援する人で集まり、見ていこうとなった。電気がついたか等確認したり、いろんな話題で声をかけるようにしている。
- (事務局) 地域でやれる範囲は限られているが、サポーターの役割を地区で認識してもらうようにしていく必要がある。
事例から学べることがある。事例を知ってもらう機会を作っていくことが大切。今後、個人情報課題になってくる。支援者もどこまでかかわっていけばいいのかと迷ってしまう。グレーな部分は町や社協が入りながら繋がりを作っていくことが重要。
- (委員) 地区社協にサポーター入ってもらうことで、何かあった時に心強い。
- (事務局) 災害時に認知症の方は混乱してしまう。サポーターが入って関わることで支援する人に見える化していくことが大切。

認知症サポーターについては学校で取っているところもある。若い世代にも協力を促していく。コープや生協病院等、企業が地域に出ていく活動をしている。地域に出たときに見守る協力者を作ることで、地域全体で支援していける。

4 医療と介護が一体となった在宅サービスの推進

(委員) 歯科の往診の依頼が来ても、道具を持ってこないと処置できない。在宅や施設で暮らす方の往診依頼が来ても、それにすべて対応できるか

10年後、歯科医師会のメンバーの半分は現役を退いている。新しい先生が来ない限りは、3、4件しか町内に医院が残らない。

車いすだったら医院に来られる方もいる。町なかタクシーを活用しながら、レベルの高い治療を受けてもらえると助かる。箕輪町だけの課題ではない。

(事務局) 箕輪町の歯科は階段を上っていくところが多い。環境的な整備が必要なのか、何か検討していることはあるのか。

(委員) 車いすで通える医院を紹介したりする協力はできる。

4 その他

5 閉会

○次回予定

第4回 高齢者福祉部会（最終回）令和5年11月13日（月）13：30
内容：次期計画における介護保険料について

本会（正副委員長のみ） 11月28日（火）13：30～